

こどもたちの第3の居場所づくりを

特定非営利活動法人夢コネクト
☎75-7105



特定非営利活動法人夢コネクト代表の森本紀子さんは、こどもが、くつろぎ、成長できる場をつくりたいとの思いから、こどもコミュニティ「キッズコム」を2011年に立ち上げました。地域・社会とこどもたちとのつながりを育むため、こどもたちの第3の居場所となり、こどもたちが主役のチャリティーマーケット開催などに取り組んでいます。こどもたちの個性に寄り添える人材育成や仕組み作りを目指し、さまざまな学びの場を創るために活動されています。

夢コネクト代表 森本紀子さん

ーこどもたちへの接し方で気をつけていることはありますか？ー

不公平な扱いをしないこと。といっても、みんなに同じ接し方という意味ではなく個性を尊重してそれぞれに合う接し方を心がけています。

ー子育てやこどもたちとのつながりはどうなっていくのでしょうか？ー

家事や育児は女性がするものという昔ながらの固定観念がまだあり、今もまだ母親がしんどい社会ではあると思います。あらゆる

ものがどんどん多様化する社会の中で、今後はこどもに直接かかわる保護者や教育関係者・支援者などの在り方も見直す必要があるのではないのでしょうか。

ー今後の活動の目標を教えてくださいー

現在、さまざまな地域を訪問し、女性のための働き方セミナーなどを行い、現代の女性が抱える問題に耳を傾けています。今後は、子育てでの困りごとを支援できるよう、まずは当事者や支援したい思いがある人達との情報共有の場づくりを計画しています。



チャリティーイベントに向けての話し合い



取材した県立芦屋高等学校ボランティア部(左右2人)と森本さん(中央)

まちづくりへの参加のきっかけ

こども家庭・保健センターでの「愛称決定会議」

「自分が過ごしたい場所を考える」として、中学生・高校生が毎回テーマに沿った意見交換をしています。第1回目のテーマは「愛称決定会議」でした。参加している中高生へ参加のきっかけや感想を聞いてみました。



中学3年生
女子

「学校外で同世代の人と話し合いをする機会がほとんどないと、高島市長も来られるとのことであまりない機会だと思い参加しました。1つのテーマについて色々な意見を出し合い、それぞれが考えた愛称に込められた思いを聞いているだけでとても楽しかったです。こども家庭・保健センターを少し見学させていただきました。スタディールームなどこれからは利用してみたいと思います。」



参加者みんなで集合写真



高校3年生
男子

「県外の大学を希望しているので、芦屋に関わることができるのは今だと思いました。こども達と関われる場所を作り、無料で色々な人と交流できるようにしてほしいです。」

こども家庭・保健センターの愛称が「あしふく」に決定

■愛称 「あしふく」

■由来 あし→芦屋 ふく→みんなが幸福に、福祉が行き渡るようにとの願いを込めた愛称になりました。

高島市長の進行で、時間いっぱい議論しているところを見て皆さんが「芦屋で生活している一員」として感じているんだと気づくことができました。自分の意見をありのままに伝え、話し合いをするというのは、**みんなでまちを創っていく第一歩**になると思います。

問い合わせ こども家庭・保健センター ☎31-0637



愛称提案者 & 県立芦屋高等学校ボランティア部 谷村京美さん

取材を終えて

県立芦屋高等学校
ボランティア部



県立芦屋高等学校ボランティア部は、部員7人であしや市民活動センター（リードあしや）の事業「君も今日から新聞記者」の活動に参加しています。

市内で活動されている市民活動団体にインタビューを行い、神戸新聞の方々にサポートをしてもらいながら、新聞を作成しています。学校外の方と交流する機会があまりない中での貴重な経験になりました。これからも芦屋市で活動されている方々を少しでも広められるよう頑張つて新聞を書きたいと思います。

その他の活動としては、赤い羽根共同募金のポスター作成やJR芦屋駅前などで募金の呼びかけを毎年行っています。また、防災食のレシピ作り「ポリ袋調理のレシピ」を昨年度から本格的に取り組んでいます。



今回の取材に奔走した県立芦屋高等学校ボランティア部のみなさん